田村紀雄教授退任記念号の発刊に寄せて

田村紀雄先生は1962年に法政大学社会学部応用経済学科をご卒業され，日本機関誌通信社での勤務を経た後，1966年から東京大学新聞研究所の助手として研究者の道を歩まれた。1971年から桃山学院大学社会学部助教授として教育研究職に従事し，東京経済大学には1975年に経営学部の助教授としてご着任された。

本学での勤続年数30年において，田村先生が教育と研究のおいて多大な貢献をされたことはいうまでもなく，また，数多くの重要な役職を勤められた。特に1993年頃より，経済学部，経営学部に続く新たな第3の学部となるコミュニケーション学部の開設準備に大変なご努力をされ，開設時の初代学部長として，学部運営にあたられた。

新しい学部ゆえに志願者確保に飛び回り，自ら学部の資料，願書を入れた封筒を何十と抱え，都内の書店に置かせてもらえるよう頼んだということを伺っている。教育面においても，いまでこそ全国の数多くの大学で実施されているインターンシップを早い時期に大学教育の中に位置づけ，セメスター制やフレッシュマン・ゼミ，そして講義的科目と実際の制作をともなうような科目との連携等の斬新な試みを学部教育に導入された。

「コミュニケーション論」,「地域のコミュニケーション」等，多くの科目を学部，大学院において講義をされ，ご研究の領域もジャーナリズム論，海外のおける日本語新聞，田中正造研究，テレコミュニケーション社会等，多岐にわたり，80冊以上ものご著作が本学図書館に収蔵されている。

田村先生は，学部，大学院の学生ともに対して教育熱心であり，常に学生に対して暖かい眼差しをもって接するようすを学内でよく見かけることができた。6号館のご自分の研究室からは，集まってきた学生達の楽しそうな笑い声が廊下にもれ聞こえ，先生と学生との気さくで親しげな付き合いを目にした。

学内ですれ違うと，右腕の肘から先を上げて，「やあ」とはにかみながら挨拶して

くれるお姿を拝見できなくなってしまったのは寂しく感じられる。

田村先生のますますのご活躍とご健康をお祈りし，今後ともご指導，ご鞭撻をいただけるよう心よりお願いいたしたい。

2006 年 2 月

コミュニケーション学部長　内　田　　平